

1. レクリエーションの本質とそのあり方

静岡女子短大 柳原 文一

1. 近時余暇及びレクリエーションの問題は生活上の大きな問題となりつつある。この際その本質を究め、更にそのあり方を追究したいと思う。

2. 心理学殊に社会心理学、精神分析学、生理学、医学、倫理学等の法則を生活の諸問題に応用せんとして、文献及び思索によって研究を進めた。

3. この研究の大体の結論をまとめてみると次の様である。肉体的・精神的疲労の回復の為には単なる休養よ

り適切なレクリエーションの方が効果的である。現代の社会における労働及び生活は単調な仕事のくり返し、社会生活に於ける種々の欲求の抑制のための欲求不満等によって、レクリエーションなしでは肉体的及び精神的の活動力が低下するばかりである。故にレクリエーションとしては労働において使わない部分迄使うとか、欲求不満の本質を分析してそれを満足させる事を研究しなければならない。欲求不満は潜在的なものが多いから、これを分析してそれに対する昇華法を考えねばならない。即ち代理又は模型化され、健康的、経済的、社会的に無害にされたもので、立派にレクリエーションの役割を果たすに最もよいものを研究しなければならない。近時レクリエーションは益々商品化され受動的・官能的になってきつつあるが（例えばスポーツをテレビ等によって楽しむ）我々は能動的・創造的レクリエーションによって労働以外の文化的能力の向上に心がけるべきだと思ふ。